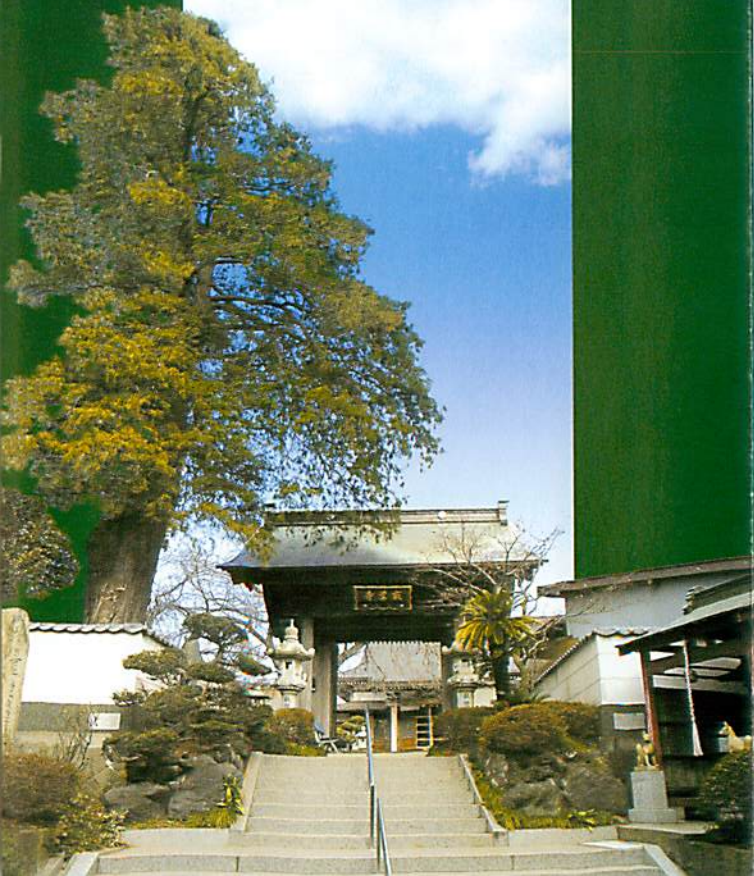
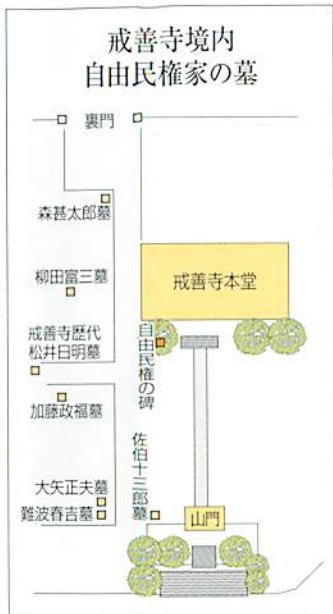


満星山 戒善寺



戒善寺ご案内

- 小田急線
「本厚木」駅北口バス乗り場
①番乗り場より公所(ぐじよ)を通るバスに乗り、
「公所バス停」下車、徒歩3分。
(バス乗車時間、約20~25分)



〈お車で…〉

- 東名高速道路
「厚木I.C.」より約18分
小田急線
「本厚木駅」より約15分
・駐車場 40台

日蓮宗 満星山 戒善寺

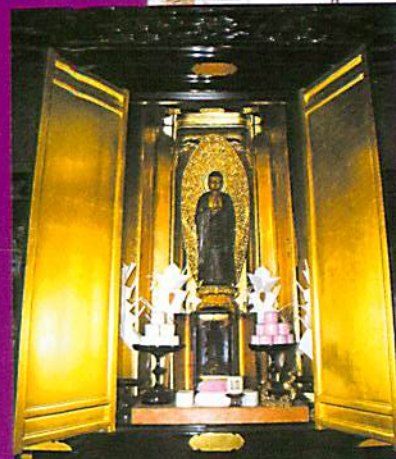
神奈川県厚木市中荻野748

TEL.046-242-1626

FAX.046-242-0319



釈迦堂



釈迦如来像

源頼朝公ゆかりの 戒善寺 釈迦如来

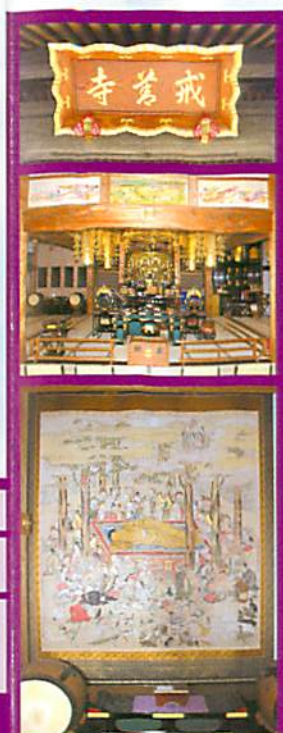
平安時代末期の治承四年(一一八〇年)八月、源頼朝は、平家再興の旗揚げを執行した。
「平氏にあらずんば人にあらず」と豪語する平家を相手にした挙兵は決して勝ち目があるとは考えられなかった。頼朝は背水の陣をしいた。敗走する場合、一つは陸路を、一つは海路を考え、何れにするかは天にまかせた。
陸路を考えたのが、ここ荻野から甲州への道であった。「我亡きあととは、この持仏釈迦如来を守り、源氏再興を計ってくれ」と頼朝、持仏を授けて家来を荻野に駐屯させた。それが現在の源氏河原である。
釈迦如来像は王子原の天台宗戒善寺に釈迦堂一字を建立し安置され頼朝の武運長久を祈願していた。幸いにして頼朝は鎌倉幕府を創設したが、源氏河原の駐屯はそのまま続け、甲州路の連絡と守護の館山を建設した。
当時の館山は、頂上に屋形を組み、北方の甲州をにらみ、いざ鎌倉に備えて源氏の裏道を固めていたのである。源氏の駐屯兵の住んでいた所が現在の源氏河原だと云われている。

日蓮上人ゆかりの戒善寺

鎌倉時代の文永八年（一二七一年）依知郷に滞在中の日蓮大上人は、戒善寺に釈迦堂のある事を知り、その年九月の下旬に親しく巡錫参詣された。住職日相は大上人の教化に浴し、師日源を開山に仰ぎ、山号を満星山とし日蓮宗に改宗した。日蓮上人は弘安五年（一二八二年）王子原より現在地へ戒善寺と釈迦堂を改築移転し、頼朝の持仏釈迦如来像を護り、供養したのである。

江戸時代の慶安二年（一六四九年）三代將軍家光より「先規に任せ釈迦堂領五石」の御朱印を賜り葵を寺紋としている。

明治初期頃までは鐘樓堂、三十番神堂それに飛地の外宮数社があったが、廃仏毀釈により寺領と共に現在では寺の所有でなくなっている。



扁額	内陣	涅槃図
法要室	会食室	
本堂天井		

● 齋場 駐車場 40台
イス席 30~100名様



自由民権家の墓と句碑

戒善寺には多くの民権家の墓がある。

山門を入ったすぐ左手に熱情の士、大矢正夫・難波春吉・佐伯十三郎の墓が仲良くならんでいる。三人が「死後もいっしょに」と申し合わせていたからである。遺言の執行は、郷党の同志として民権運動にも参加した当寺の五十三世住職、松井日明上人のからいによるものである。ちなみに松井上人は大矢・佐伯・加藤政福・柳田為十郎らと共に公立山中学校の教師をしていた。

行先盤都江 ちかき花野可那
（行先は 都へちかき 花野かな）
日殿上人は森其太郎・柳田為十郎他、後の民権家たちの俳句の師匠であった。



自由民権家の碑



碑の説明



佐伯十三郎の墓



難波春吉の墓



大矢正夫の墓

—境内墓所受付中—

詳しくはお問い合わせください。

